**教育・特別支援教育 公開講演会 育児・保育・療育**

**発達における情動の役割**

**～情と知・情の知・情に対する知～**

**遠藤利彦**

(東京大学大学院教育学研究科准教授)

主催 日本臨床発達心理士会 千葉支部

近年の研究によって、情動の発達は、社会性や「人間関係の形成」（自立活動の新区分）の基盤になることが明らかにされていますが、療育や学校現場において、情動をどう捉えるかについて十分なコンセンサスは得られているでしょうか？「情動をどう抑えるか」に汲々としてはいないでしょうか?

今回、わが国の情動発達研究の第一人者である遠藤先生をお招きし、発達における情動の意味をあらためて考えてみたいと思います。

乳幼児から学齢期、思春期、成人、健常、障害を含めた幅広い分野から、支援に関わる方々の参加をお待ちしています。

[ 講演主旨］

人が日々経験し、また表出する種々の情動は、その個としての発達の進行において、また個と他者との関係性の構築や維持において、あるいはまた個を取り巻く社会・文化的風土の形成において、不可欠の役割を果たしていると考えられる。

この講演では、情動の起源と発達およびそれが他領域の発達全般にもたらす影響などについて広く概観・整理した上で、特に発達における「情動と知」（認知・理性）の絡み合いという視座から、近年とみに注目度が高い情動的知性(emotional intelligence)という概念について再考を試みることにしたい。

より具体的には、子どもの情動に焦点化した発達支援において問われるべきことが、単に「情動に対する知」（"disorganizer" として在る主にネガティヴな情動に対する制御能力）をいかに豊かに身につけさせ得るかということのみならず、「情動の知」（情動に元来備わって在る"organizer"としてのポジティヴな機能）をいかに有効に活用させ得るかということでもあることを再確認したいと考える。

２００８年６月１日(日) １４時～１７時 受付開始 １３時３０分

千葉大学西千葉キャンパス

ＪＲ西千葉駅より徒歩２分(南門) 京成みどり台駅より徒歩７分(正門）

人文科学研究科・マルチメディア会議室

参加費２０００円当日会場でお願いします

参加される方は下記事務局まで、Ｅメール、ファックス、葉書のいずれかでお申し込みください。